

⑥ ミズヒマワリ（キク科）【特定外来生物】



<生態>

中央・南アメリカ原産の多年生の抽水植物。

1995年に愛知県で確認され、現在は関東、北陸、中部、近畿、四国、九州の各地方に分布。6～11月に白い花をつけ種子繁殖を行うが、茎断片や葉片からの栄養繁殖も旺盛。冬季に霜により葉が枯死する場合があるが、西南日本では沈水状態で常緑越冬する。訪花昆虫に対する誘引力が強い。

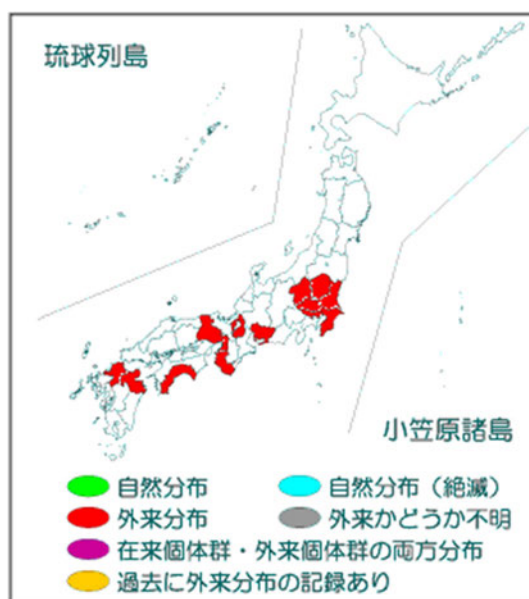
<見分け方>

葉は対生で、毛はなく、縁には低い鋸歯がある。高さは0.5～2mになる。夏季に白い花をつけ、終わりの時期になると下を向く。



ミズヒマワリの葉

<分布域>



分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース（令和7年2月現在）より引用

<対策のポイント>

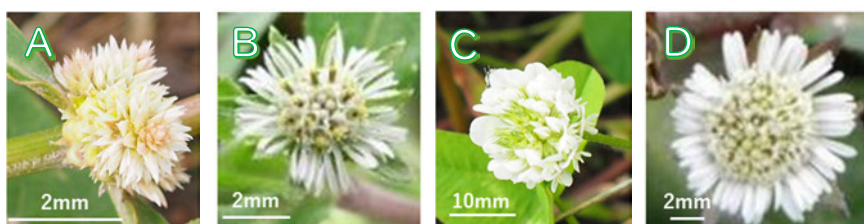
・他の植物と同様、**重機や手作業**により、**地下部を含めて除去**する。作業の際には、下流側にオイルフェンス等を設置し、**切れ端を拡散させない**。活性が低い冬季に作業することも有効。

・小規模群落であれば、**遮光シート**で群落を覆う方法による駆除効果が確認されている。

・大阪府水生生物センターは、遮光シートを**2カ月間設置した結果、地上部が枯死し、半年間では根も枯死**することを報告している。



作業の際には流出防止対策を！



田や水路周りに自生する花が類似した植物

〔A ツルノゲイトウ、B アメリカタカサブロウ、C シロツメクサ、D タカサブロウ（A～Cは外来種だが特定外来生物ではない、Dは在来種）〕

⑦ オオカナダモ (トチカガミ科) 【重点対策外来種】



<生態>

南アメリカ原産の多年生の沈水植物。1970年代に琵琶湖で大繁茂し問題視されるようになった。現在、本州、四国、九州、八丈島に分布。雌雄異株だが、国内に定着しているのは雄株のみで、種子繁殖はせず、切れ藻(植物断片)による栄養繁殖により分布を拡大する。



オオカナダモの花

5月～10月頃に花弁が3枚の白い花をつける。

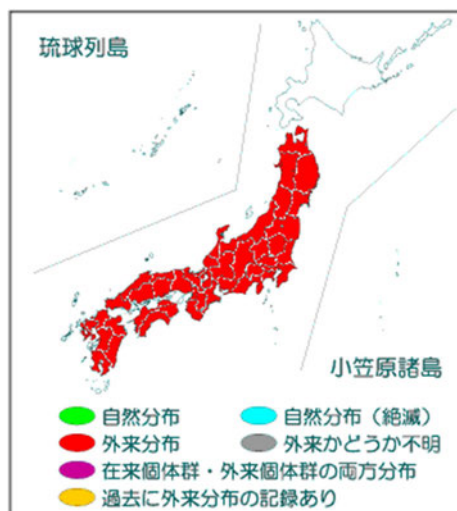
<見分け方>

4枚(まれに3～8枚)の葉が茎に密に輪生する。類似するコカナダモは3枚(2～4枚)、クロモ(在来種)は3～6枚。



類似種との葉数等の比較

<分布域>



分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース(令和7年2月現在)より引用



<対策のポイント>

- ・重機や手作業のほかに、**エアスコップ**(右写真)や**水草回収船**を利用し、駆除を省力化した事例がある。作業時には**切れ藻の流出による分布拡大の防止に努める**。駆除の適期は群落拡大初期の3月頃で、相対的に労力が少なくて済む。
- ・水の流れが滞りやすく、土砂が溜まりやすい環境に定着し、下流側の土砂堆積を促して**連鎖的に分布域を拡大**するため、**堆積した土砂を定期的に除去**することが重要。
- ・水路の蓋掛けによる**遮光**も防除に有効だが、身近な水辺環境が失われてしまう。岡山大学農学部では、**ランネット(遮光率50%)を2枚重ねて活用した「水面遮光」と「水中遮光」**による防除効果を評価し、オオカナダモ等の再生抑制効果を確認した(次頁、「コカナダモ」の中で紹介)。

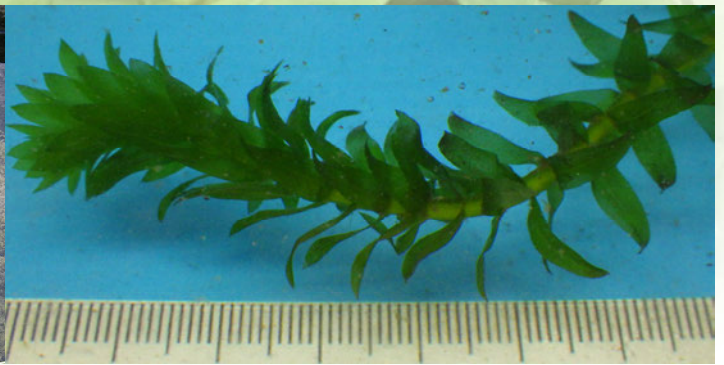


エアスコップ:コンプレッサから送られる圧縮空気て根ごと除去



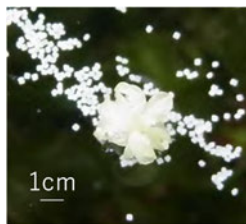
水路の蓋掛けによる遮光

⑧ コカナダモ (トチカガミ科) 【重点対策外来種】



<生態>

北アメリカ原産の多年生の沈水植物。正確な導入年代は不明だが、野生化は1961年に琵琶湖で発見されたのが最初。関東地方以西に分布。オオカナダモと同様、国内に定着しているのは雄株のみで、種子繁殖はせず、切れ藻(植物断片)による栄養繁殖で分布を拡大。5月～10月頃に白い花をつける。



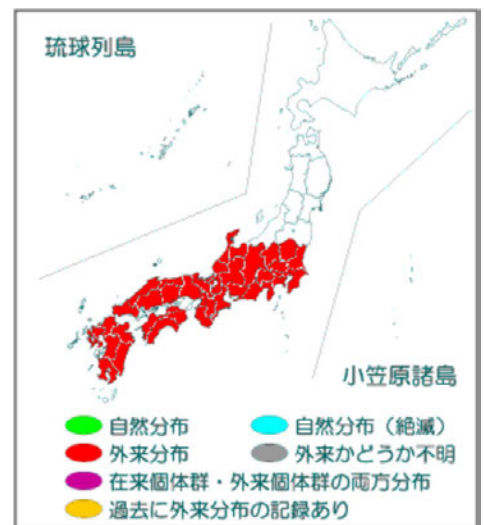
コカナダモの花

<見分け方>

通常、3枚(2～4枚)の葉が輪生する。類似する植物にオオカナダモやクロモ(在来種)などがある。



<分布域>



分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース(令和7年2月現在)より引用

(左写真) 左から、コカナダモ、オオカナダモ、クロモ

<対策のポイント>

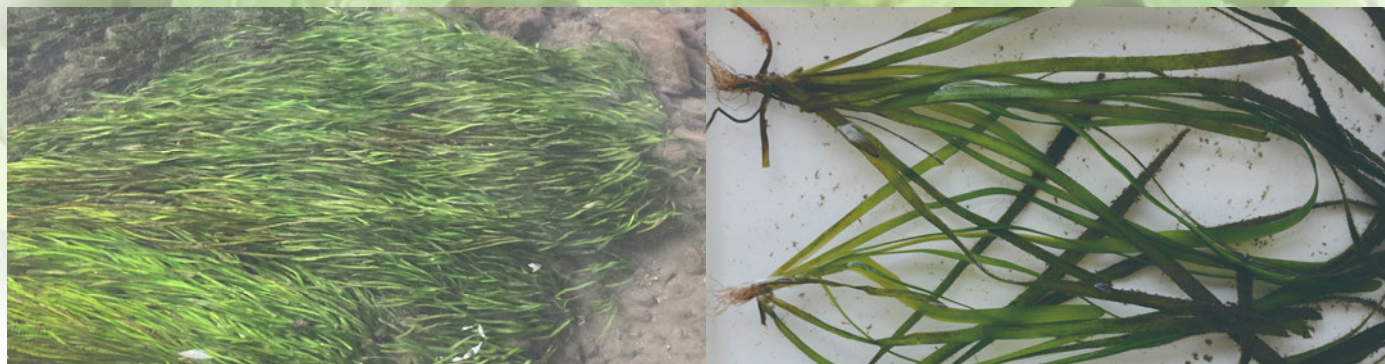
・オオカナダモと同様、**重機や手作業**のほかに、**エアスコップ**や**水草回収船**による除去、**遮光**、**堆積した土砂の定期的な除去**などがあげられる。オオカナダモより**低温耐性が高く**、春先から**活発に生長**するため、駆除の**適期**は、群落拡大前の11月以降の冬季で、労力が少なくて済む。**遮光**による防除は、切れ藻が発生しないことから、切れ藻の流出による分布拡大の懸念がない。

・**遮光**による対策事例として、岡山大学農学部では、**ランネット(遮光率50%)**を**2枚重ね**て活用した「**水面遮光**」と「**水中遮光**」による防除効果を評価し、オオカナダモ等の再生抑制効果を確認した(写真は岡山大学農学部提供)。



水面遮光(左)と水中遮光(右)

⑨ 外来セキショウモ（トチカガミ科）【重点対策外来種】



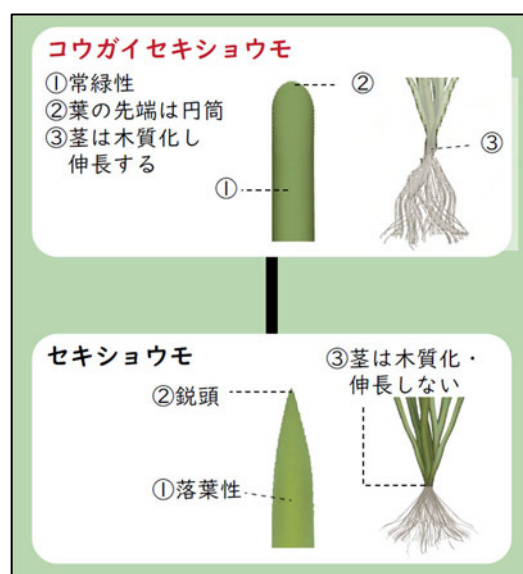
生物多様性情報総合プラットフォーム 福岡生きものステーションより引用

<生態>

多年生の沈水植物。国内には、コウガイセキショウモとオーストラリアセキショウモの2種の野生化が確認されている。雌雄異株で、国内では雌株しか確認されておらず、栄養繁殖によって増殖していると考えられる。コウガイセキショウモは関東地方以西の2府14県に、オーストラリアセキショウモは関東地方以西の3県に分布。

<見分け方>

セキショウモ（在来種）とよく似ているが、下表のとおり、常緑性と落葉性の違い、葉や茎の特徴により見分けることができる。



セキショウモ（在来種）とコウガイセキショウモの見分け方（図は、福岡県侵略的外来種防除マニュアル2021より引用）

■ セキショウモ類の見分け方

項目	コウガイセキショウモ (外来種)	オーストラリアセキショウモ (外来種)	セキショウモ (在来種)
常緑性or落葉性 (右上図 ①)	常緑性	常緑性	落葉性
葉の先 (右上図 ②)	円頭	円頭	鋭頭
茎 (右上図 ③)	木質化し伸長	木質化・伸長しない	木質化・伸長しない
葉の幅	7-13mm	11-35mm	2-6.5mm

<対策のポイント>

- ・群落の規模が小さい場合は**手作業で抜き取り**、群落が大きい場合は**重機により底泥ごと剥ぎ取り**除去する。費用はかかるが、ポンプの水流により除去する方法もある。
- ・植物断片（特に根茎）からも再生するため、除去作業の際には、①**最上流部から駆除**を始める、②下流側にオイルフェンス等を設置して**切れ端を拡散させない**、③**根ごと丁寧**に抜き取る、④浮遊している根茎の**断片はたも網で除去**する。

⑩ 外来アカウキクサ類(アゾラ)(アカウキクサ科)【特定外来生物】



<生態>

原産地不明の1~2年生の浮遊植物。

主に関東地方以西に分布し、水田やため池、水路などの止水環境で増殖する。

シダ植物の仲間で、5~6月に孢子嚢をつける。孢子は水によって運ばれ、夏には茎の枝分かれによる栄養繁殖によって水面を覆うほどになる。合鴨の餌飼料、マルチングや緑肥として導入された後、水鳥によって拡散したとされる。

※アゾラ・クリスタータの生態について整理

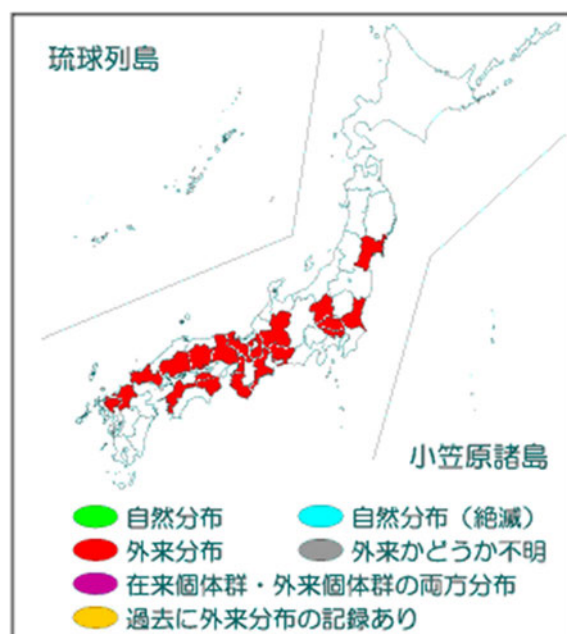
<見分け方>

水面を浮遊する浮き草。植物体全体に赤みがあり、葉の表面に突起がみられる。

絶滅が危惧されるオオアカウキクサ(在来種)との見分けは難しいため、専門家に相談の方がよい。



<分布域>



分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース(令和7年2月現在)より

←上写真がアゾラ・クリスタータ(特定外来生物)、下写真がオオアカウキクサ(在来種・絶滅危惧種)

<対策のポイント>

- ・**手作業**による除去が一般的。水面を浮遊する浮き草なので、**たも網**(目合いの大きさが5~10mm程度の目の細かいネット)等により**すくい取る**。
- ・駆除の実施時期は、**夏季の栄養繁殖前(秋季~春季)**が望ましい。取り残しが生じることも多く、**年に数回、複数年かけて根気強く除去する**。
- ・駆除作業に用いた**道具に付着して移動させない**ように注意が必要。



たも網による除去作業
(写真は岡山大学農学部より提供)